

第4回 『徒然草』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

資季大納言入道とかや聞こえける人、具氏宰相中将に会ひて、「*わぬしの問はれむほどのこと、何ごとなり^①とも答へ申さざらむや」と言はれければ、具氏、「いかが侍らむ」と申されけるを、「さらば、*あらがひたまへ」と言はれて^②はかばかしきことは、片端も学び知り侍らねば、尋ね申すまでもなし。何となきそぞろごとの中に、おぼつかなきことをこそ問ひたてまつら^③A「と申されけり。

「まして、ここもとの浅きことは、何ごとなりともあきらめ申さむ」と言はれければ、*近習の人々、女房なども、「興あるあらがひなり。同じくは、*御前にて争はるべし。負けたらむ人は、供御をまうけらるべし」と定めて、御前にて召し合はせられたりけるに、具氏、「幼くより聞きならひ侍れど、その心知らぬこと侍り。

『*むまのきつりやうきつにのをかなかくばれいりくれんとう』と申すことは、いかなる心にか侍らむ。承らむと申されけるに、大納言入道、はたと詰まりて、「これは、そぞろごとなれば、言ふにも足らず」と言はれけるを、「もとより深き道は知り侍らず。そぞろごとを尋ねたてまつらむと定め申しつ」と申されければ、大納言入道、負けになりて、*所課いかめしくせられたりけるとぞ。^⑤

語句

○きこゆ「聞く」へ聞く「未」上代の受身・自発・可能の助動詞「ゆ」「聞かゆ」の転

自動

①聞くこえる ②うめさされる ③理解される

他動

へ「言」の謙譲語へ申し上げる

(手紙などを)差し上げる

補動

(動詞・助動詞の連用形に付)

へ謙譲の意を表すへおへ申し上げる。おへする。

。わぬし「吾主」代へ対称の人称代名詞。対等または

それ以下の者を親しんでまた軽んじて呼ぶ語へ

そなた。きみ。あま。

。あらがふ「争ひ」動へ自分の主張を言い張って譲らない

①言い争ひ ②競争する。賭けをする。

。はかばかし「果果し」形①際立つている ②しっかりしている

。かたはし「片端」名①一方の端。

(そぞろ)

②ごくわずか。一部分。

。すずろごと「漫ろ事」名とりとめのないこと。

くだらないこと。

。おぼつかなし「臍握無し」形①は「キリ」はない

②不安だ。気がかりだ ③待ち遠しい

。ここのもと「此処許」代①身近な所。すぐ近く。②こちら側

へく「供御」名。飲食物の敬称。お食事。

。こころ「心」名(本文では)意味。

。いかめし「厳めし」形①おごそかだ ②盛大である。

③激しい。荒々しい。恐ろしい。